

◎ソウイエット聯邦の道路問題

ソ聯邦政府は、道路輸送の發達を計る爲に鐵道以外に道路の建設修理及保存を目的とする道路建設事務所を設置したのであつたが、今回同政府は道路の經營、自動車輸送の指導並に計畫上必要があると言ふので、從來交通人民委員部内の一部に屬してゐた鋪道、自然道路及自動車輸送本部を同委員部から分離して、聯邦人民委員會議附屬の獨立機關に報告があつた、其の議定は左の通りである。

「ソ」聯邦人民委員會議直屬全聯邦鋪道
自然道路及自動車運輸本部ノ設立ニ關ス

ル「ソ」聯邦中央執行委員會及「ソ」聯邦人民委員會議決定

道路經營及自動車運輸ノ指導並ニ計畫化ノ増進ヲ緊急ト認メ「ソ」聯邦中央執行委員會及「ソ」聯邦人民委員會議ハ左ノ通り決定ス

第一條 鋪道、自然道路及自動車運輸本部(ツドルトランス)ヲ交通人民委員部ヨリ分離シ「ソ」聯邦人民委員會議ニ直屬スル獨立ノ全聯邦本部ニ改造ス

第二條 倉庫業輸送業全聯邦合同(サユーズトランス)を交通人民委員部ノ所管ヨリ「ソ」聯邦人民委員會議ニ直屬スル全聯邦鋪道自然道路及自動車運輸本部ニ移管ス

第三條 各共和國ノ鋪道、自然道路及自動車輸送本部ニ準シ「ソ」聯邦複合人民委員部ニ相當スル權利ヲ(全聯邦鋪道及自然道路、自動車運輸本部)ニ附與ス

第四條 全聯邦鋪道、自然道路及自動車運輸本部部长及其ノ代理ハ「ソ」聯邦人民委員會議之ヲ任命ス

第五條 本決定ヨリ生ズル「ソ」聯邦現行法規ノ變更ニ關

シ二十日以内ニ確認ヲ得ルガ爲「ソ」聯邦人民委員會議
ニ提出方全聯邦鋪道、自然道路及自動車運輸本部ニ委任
ス

「ソ」聯邦中央執行委員會議議長

ゲ、ペトロフスキ

「ソ」聯邦人民委員會議議長

グ、モロトフ

「ソ」聯邦中央執行委員會議書記長代理

ア、メドヴェジエフ

「モスクワ、クレムリン」一九三一年六月三日

◎上海で路市展覽會開催

上海佛租界勞神父路六〇八號に事務所を置く中華全國道路建設協會は、中華民國に於ける道路の改良發達を目的とする團體であるが、今回其の設立十周年記念事業として、同地に於て路市展覽大會を開催することゝ爲り、外交部長王正廷氏を會長に、其の他朝野知名の士を副會長、執行董

事等に擧げ、又國民政府筋有力者並に上海駐在各國總領事商務官等を顧問又は委員とし、各國に於ける交通關係の既成工事又は進行中の工事狀況の寫眞其の他道路築造補修並に運輸に關する機械車輛等の寫眞及模型を蒐集、相當規模の國際的展覽會たらしむべく、豫て我國に對しても同國外交部を通じて出品方を勧誘して來て居つたが、内務省に於ては東京復興道路、神明國道、阪神國道、京阪國道其の他改良道路、橋梁の寫眞三十數葉を去る九月十二日神戸出帆の郵船上海丸に託し出品を爲した由である。

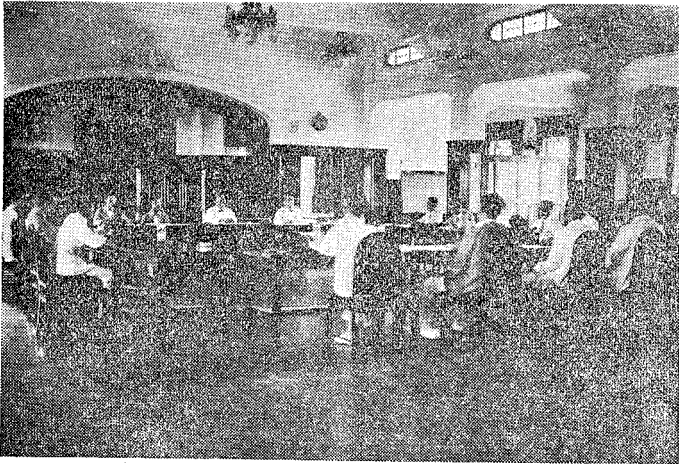
◎「高等土木工學」の進展

本會理事牧彦七氏の監修する「高等土木工學」は刊行以來豫定の通り進捗し、斯界に多大の貢獻をして來たが、今回其の筋書に従つて牧野雅樂之丞氏が執筆された「道路工學」を刊行するに至つた、我國に於ても昔とは違つて近代道路が漸次築造さるゝやうに爲つたが、之が築造の學術に關する著書は皆無であると言ふ狀況であつて路政に關する

學徒は其の適從する所に惑つて良著の刊行を期待したのであつたが、今夫れが高等土木工學全集の一編として世に出

たことは、吾人の頗る満足する所である。

執筆者牧野氏は、道路技術に關する一大權威者であることは今更言ふ迄もない、従つて本著の價値を吹聴するの要はないが、氏が本會幹事として終始會務に従事されて、技術方面を擔當し、いつも嶄新な意見を提供され失業救済道路事業に關係して多忙な身でありながら、今回牧理事の計畫に賛して本編を著述されたことは、本會の頗る多とする所である、「高等土木工學」刊行の事業が益々進展して、我が工學界に貢獻せむことを切に祈るものである。



九州沖繩八縣土木課長會議

◎九州沖繩八縣土木課長會議

九州沖繩の八縣土木課長會議は八月二十八日午前九時から福岡縣廳別館第一會議室に開會、坂本福岡、楠長崎、土肥大分、谷佐賀、丸山熊本中川鹿兒島、山田宮崎の各課長出席（沖繩缺席）、内務省からは新居内務事務官、三浦内務技師臨席し、川淵福岡縣知事から、近時社會の進運に伴ひ土木事務は益々複雑多岐を極むるを以て之が改善若はその取扱に付ては近似府縣相互連絡統一を期したること、及近年急激の發通を遂けたる自動車交通に關しては互に意見を交換し將來に處する事項を研鑽討論し、尙福岡縣に於ける土木事業視察の上批判を得度き旨の

希望挨拶に次で、小林福岡縣内務部長議長席に就き福岡縣

から提出に係る「關門聯絡施設に關する件」外三件、佐賀、

長崎、鹿兒島、宮崎、大分の各五件、熊本縣の一件併て三

十件を議題に供し各自意見交換の上、左記七件に對しては

夫々關係當局に對し希望又は陳情することとし、次回の會

議開催地を熊本縣と決定し午後四時三十分會議を了り、一

同打ち連れて糸島郡今宿村に於ける福岡縣營碎石所、福岡

市内西公園、大濠公園等を視察し、夜は川湘福岡縣知事の

招宴があり、八月二十九日は早朝から東公園、名島橋、香

椎驛附近國道改良工事を見學し、午後は八幡製鐵所、戸畑

冷凍會社の工場、門司市内鋪裝工事等を視察、八月三十日

は福岡、二日市町間國道改良工事、久留米市内に於ける福

岡、佐賀兩縣負擔に係る豆津橋架橋工事、午後は福岡市平

尾淨水池、博多築港等を視察して午後四時解散各自夫々歸

任した。

柱等移轉に關する件(福岡)

ニ付更に内務省ノ研究ヲ乞フコト

二 土木工事標準仕様書各府縣

内務省ニ希望トシテ陳情ノコト

三 關門聯絡施設に關する件

(福岡)

七年度豫算ニ調査費計上方内務省ニ上申ノ一府縣ノ設計承認方ヲ鐵道當局ニ建設スルコト

四 國有鐵道建設の爲國府縣道

橫斷又は付替の場合道路幅員

及勾配を如何にするか(佐賀)

五 國有林野多き地方に於ける

道路改修費に對し農林省より

補助金交付方陳情の件(鹿兒島)

六 失業救濟國道改良工事を地

方廳に於て執行方建議の件(鹿兒島、宮崎)

七 道路工夫等の共濟組合設置

の件(宮崎)

内務省ニ對シ研究ヲ乞フコト

提 案 件 目

會議の顛末

一 道路占用の遞信省電信電話

道路法制定當時ノ経緯

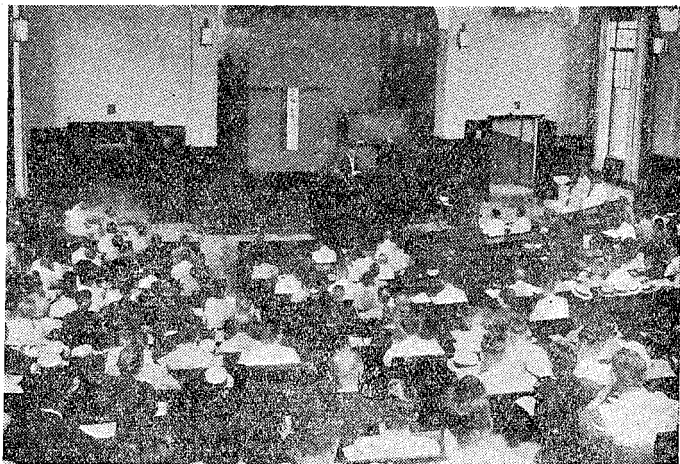
◎福岡に於て開催したる

道路學術講演會

九州地方に於ける道路關係者の便宜のため特に福岡に開催したる、道路學術講演會は八月二十四日から同二十六日に至る三日間、福岡市外箱崎町九州帝國大學工學部の大講堂に開會した。内田副會長は東京から飛行機で一氣に飛んで來て些の疲労の色もなく、開會劈頭「道路の所感」と題して道路發達の沿革から説いて近代交通の要求する道路に及び、併て道路學術講演會を特に九州福岡に開催するに至つた所以を述べて大いに聽講者諸君の緊張を促した。

九州各縣は申すまでもなく内地は兵庫、鳥取、島根、岡

表する次第である。又「平素夫々の職務に忙殺せられて思



道路學術講演會の狀況

山、山口又は四國の各縣、遠くは朝鮮から集つた聽講者、實に第一日は二百八十七名、第二日は二百九十一名、第三日は三百五名と云ふ多數に及び、連日九十七、八度の酷熱をも厭はず何れも極めて熱心に聽講せられ、講師各位亦瀧なす汗を拭ふ暇もなく極めて懇切丁寧に、平素の蘊蓄を傾け盡されて豫期以上の成果を收め八月二十七日午後三時三十分新居幹事の挨拶を以て終了した、講演科目と講師の顔觸れ左記の通り。

因に此の講演會の開催に當り、福岡縣坂本土木課長以下土木課員諸君并九州帝大の吉田教授が、終始一貫實に吾がことの如く斡旋盡力せられたる厚意に對しては茲に謹で敬意を

ひながら、日に月に進む學術の研鑽に對し時間的の餘裕を恵まれない向に對しては、今回の講演會が如何に適切有效にして所謂時宜に適したる施設であつた」との聽講者諸君の聲に對しては本會も大いに満足するところであつて、今後事情の許す限り適當の機會に此の種の催しを計畫することとならう。

講演科目

講師

道路の所感

道路改良會副會長
貴族院議員 内田嘉吉

鐵筋混凝土學

九大教授 吉田徳次郎

アスファルト鋪裝學

内務技師 岩澤忠恭

地質學

鐵道技師 渡邊貫

セメント鋪裝學

内務技師 藤井眞透

橋梁工學

内務技師 三浦七郎

道路行政の概要

内務事務官 新居善太郎

科外講演

最近歐米諸國の道路

内務技師 藤井眞透

福岡縣に於ける道路改良工事に就て

福岡縣土木課長 坂本一平

尙右講演の外聽講者の實地見學として、第一日の八月二十四日午後三時半から久留米市大石町、府縣道久留米神崎線に架設中の日本に於ての嚆矢とする一徑間三〇米の鐵筋混凝土ゲルベル桁橋構造の豆津橋を、第二日の八月二十五日午後三時半からは糸島郡今宿村に於ける原石材二十萬坪を包藏し、その材質は安山岩にして路面鋪裝工用として適當なる福岡縣營今宿碎石所を、第三日の八月二十六日午後三時半からは吾が國第一の設備を有する九州帝大工學部の實驗室その他を、講演會終了の翌日八月二十七日には一同午前七時博多驛に集合、八幡製鐵所に至り製鐵の副産物として産出する道路鋪裝用「タール」の發生狀況その他を見學し、午後は八幡、小倉兩市内に於ける鋪裝道路及同工事の實況を視學して午後三時半小倉驛にて解散した。